

学生による比喩表現を用いた現実と理想の授業評価

福田 恭介・文屋 俊子・夏原 和美・宮崎 昭夫

要旨 本学で行われている現実の授業と理想の授業に対するイメージ、さらに本学の教員と理想の教員に対するイメージを学生に比喩的に表現させた。それによって、理想と現実の授業および理想と現実の教員の比較を行い、これから授業を改善していくための手がかりを得ることを本研究の目的とした。その結果、現実の授業は道標にはなるが一方的に行われているというイメージであったのに対し、理想の授業は、笑いや遊びの要素をいれることで90分がまたたく間に過ぎていき、ともに育ち合っていきたいというものであった。また、現実の教員は、堅く遠い存在なのに対して、理想の教員には、親や友達のように相互にやりとりできるような存在を求めていることがわかった。このようなことから近い関係で相互交流が行われる授業が学生には望まれていることが示唆された。

目的

学生による授業評価が多くの大学で行われ、いろいろな議論を呼んでいる。多くは学生からの授業評価を、教員の授業を改善するためにどのように利用するかに焦点が絞られている（松尾・近藤、2005）。学生による授業評価を行う場合、その多くが質問項目に対する数段階の評定値を用いている（福田・本多・文屋・宮崎・Stott, 2006）。教員の授業をどのように改善すればよいかについて検討するとき、いくつかの問題を指摘することができる。（1）質問項目の中に学生が要求する授業改善の内容が含まれているのか、（2）質問項目の平均値を何と比較すれば改善の道筋が見えてくるのか、といっ

たものである。

学生が授業評価をする場合に、満足したかどうかを答える際に、内容に満足したのか、教え方に満足したのか、教員の人柄に満足したのか、成績に満足したのか、あるいは自分の進歩に満足したのかは不明確である（松尾、2006）。このことは学生による授業評価を求める場合、避けては通れない問題となり、議論を呼ぶところとなる。こういったことから、学生がどのような授業を求めているのかを調べることは意味あることである。その際、こちらから学生の求めている授業内容を想像し、質問項目を呈示し、学生にどのくらい当てはまるかを答えさせることが考えられる。そのためには、質問項目がどの程度、学生の求めている授業と合致する

かを確認する必要がある。一方、自由記述により、学生に対してどのような授業が満足のものかをたずねた場合、あまりにも漠然とした質問なので、学生がこちらの意図通りに答えることはむずかしく、さらにそれらをどのように数値化していくかという問題が残されている。

授業評価の質的な情報を得るには、数値による情報よりも、言語化されたものがより妥当であると考えられる。そこには、学生の授業に対する不満や満足、あるいは要望が述べられているからである。そのためには、自由記述された学生の授業評価に何らかの枠組を設けることによって、焦点を絞り込む必要がある。

秋田(1996)は、授業に対するイメージを比喩的に生成させることによって、教える経験によって授業イメージが異なることを明らかにしている。すなわち、教えられる側の学生は、授業を情報の伝達や毎日の決まり切った仕事ととらえていたのに対し、教える側の教員は、授業を予想もできない状況を生徒と作り上げていく共同作業と捉えていた。このように授業を比喩的にとらえると、評定値ではとらえられなかったものが浮かび上がってくる。授業を比喩的にとらえる場合、その視点をどこにもってくるかによってとらえられる授業イメージや教師イメージは大きく異なってくる。そのイメージを明確にするには、理想としてはこうあってほしいと思うイメージと、現実にはこうでしかないイメージとのずれを比較することで可能だと考えられる。さらにイメージすべき対象を授業と教員に限定し、そのようにイメージした理由を問うことで、そのイメージへの理解が可能となる。それは、落語で行われている「●●とかけて△△と説く。その心は、□□である。」に似ている。

そこで、本研究では、現実に行われている授業と理想の授業、現実の教員と理想の教員に対するイメージを学生に比喩的に表現させた。それによって、理想と現実の授業、理想と現実の教員の比較を行い、そのずれを元にこれから授業を改善していくための手がかりを得ることを目的とした。

方法

被験者：大学生306名に調査用紙を5つの授業中に配布した。

課題：比喩を求めめるために4つの比喩状況とその理由を述べる欄を用意した。(1)現実の大学の授業、(1)-1その理由、(2)理想の授業、(2)-1その理由、(3)現実の大学教員の授業、(3)-1その理由、(4)理想の教員、(4)-1その理由。なお、実施に当たっては、「あなたは福岡県立大学の授業や教員(先生)に対してどのようなイメージを持っていますか?そのイメージを比喩で表現してください。また、どのような授業や教員(先生)が理想だと思えますか?そのイメージも比喩で表現してください。それから、どうしてそのように感じたのか、その理由も次の余白に書いてください。たとえば、「記憶は(雲)のようだ。なぜなら、すぐに消えてしまう」、「子どもは(綿菓子)のようだ。なぜなら、ふわふわしていて夢がある」というように、あなたのイメージに従って、たとえる言葉を記入し、比喩の説明を行ってください。」比喩の例とその理由については秋田(1996)における例示を参考にした。

実施手続：筆記による集団一斉で実施した。実施した授業は「教育心理学概論」「認知心理学」「地域福祉論Ⅱ」「コミュニティ論」「人類生態

学]であった。11月から12月における各授業の中で約15分間を用い、配布したA4用紙に記入してもらった。

結果の処理：得られた文字を表計算の各セルに、所属学科、学年、および上記の4つの比喩およびそれぞれの理由をタイプした。現実と理想の授業、現実と理想の教員およびその理由において、理想と現実の違いを見るために、下記の単語が何回選択されたかを数えた。用いた単語は、以下の通りである。これらの単語が用いられたのは、選択された回数が比較的多いことが視察により確認されたからである。

石、BGM、放送、一方、テレビ、映画、鳥、バラバラ、ばらばら、いろいろ、ウキウキ、ワクワク、水、道、未来、迷、路、雪、雨、飽、先輩、小学校、中学校、高校、近、遠、母、父、友、親、優、楽、遊、厳、かたい、固、硬、堅、柔、軟、静、互、好、すき、嫌、交、味、合、明、関、学、習、育、教、分、わかり、理解、解、難、眠、幸、退屈、役、意味、相談、興奮、興、興味、刺激、集中、自由、積極、消極、熱、暖、温、冷、色、導、笑、面白、おもしろ、ため、つまらな、知識、講義、討論、論

これらの文字や単語が理想と現実によってどのように異なるかを²検定を行った。

結果

306人の回答者のうち、現実の教員イメージに対する比喩を行った人数は255名、理想の教員イメージに対する比喩を行った人数は248名であった。また、現実の教員イメージに対する理由を回答した人数は259名、理想の教員イメージに対する理由を回答した人数は250名であった。現実の授業イメージに対する比喩を

行った人数は275名、理想の授業イメージに対する比喩を行った人数は271名であった。また、現実の授業イメージに対する理由を回答した人数は276名、理想の授業イメージに対する理由を回答した人数は269名であった。

現実の授業と理想の授業：現実の授業において比喩されたものの中で最も多かったのが「映画(11)」、つづいて「テレビ(10)」であった。映画については、「映画館：生徒の中で、その授業に関心があると、しっかり話を聞いているが、あまり関心がない、もしくはどうでも良いと思っている人は、寝たり、携帯を触っているからだ。」「白黒の映画：熱中できずにぼんやりしてしまう。」「映画：おもしろくてすぐ終わる時もあれば、詰まらなくてなかなか終わらない時もある。」「映画：パワーポイントとか使っているときなど、ときどき眠気に襲われてしまう。」などが上げられた。テレビについては、「テレビ：興味あるのと、無いのと、集中できるのと、できないのと、様々。」「テレビ：先生から生徒へ一方通行で、こちら側は何もできない。」「テレビ番組：面白かったり、面白くなかったりするからだ。」「テレビマンガ：毎回いろいろな刺激を与えてくれるから。」などが上げられた。理想の授業において比喩されたものの中で最も多かったのが「学(13)」、つづいて「遊(12)」であった。学については、「小学校」、「大学」、「遊びの中に学びがある」「グループ学習」などがあり、一貫した意味を見つけることはむずかかった。一方、遊については「遊園地」「遊び」「遊びの中に学びがある」など遊びの要素を求めていることが分かった。

表1は、授業イメージの比喩について、理想と現実の間において有意水準5%以下で差が見られたものを抽出したものである。「一方」に

については、現実の授業では、一方通行や一方的と比喻されたのが275個中5個の回答があり、理想の授業では一方と比喻されたものはなかった。「道」については、現実の授業では、一方通行や狭いでこぼこ道と比喻されたのが275個中8個あり、理想の授業では整備された道と比喻されたのが271個中1個あった。「遊」については、現実の授業では、遊園地と比喻されたの

が275個中1個であったのに対し、理想の授業では、遊園地や遊びと比喻されたのが271個中12個であった。「育」については、現実の授業では比喻されたものがなかったのに対し、理想の授業では、保育、教育、体育、子育てと比喻されたのが271個中5個であった。「笑」については、現実の授業では、お笑い芸人と比喻されたのが275個中1個であったのに対し、理想の

表1. 現実の授業 (■) と理想の授業 (□) で有意差が見られたもの

<p>一方 ($\chi^2=4.97, df=1, p=.026$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■一方通行 (プリントを読んでいるだけの授業、淡々と進んでいく授業があり、理解が深まらない。眠くなってしまう。) ■一方通行の道路標示 (先生は私たちが導こうとしてくれるが、形式張っている感じがする。単調で面白味に欠けている。) ■一方通行 (教員から生徒への一方的なもの。) ■どちらかというと一方的 (-) ■一方通行の道路 (講師が一方的に話すことが多い。) 	<ul style="list-style-type: none"> □遊園地でも海でも良い (安全は保障されていて、楽しめる。自ら何に乗るか選択でき、それ自体を楽しみながら、満足を得ることができる。スリルや恐怖も含め楽しむことが必要。) □遊園地 (のりたいたいものにるように、自分の興味のあることに意欲的に取り組みたい。) □遊び (楽しいけど、学びもたくさんある。) □日々の遊び (おもしろくて解りやすい。知識として自分の体に身に付いている。) □遊園地 (楽しい。) □遊びの中から学びがある (実際にやってみて学んだときの方が、よく頭に残ってるし、理解しやすいから。) □遊園地 (とにかく楽しい) □遊園地 (様々なことを体験できる。) □遊 (楽しいから。) □遊び (自分も積極的に授業に参加したいから。) □遊園地 (90分間をひたすら熱中していたいから。) □遊び (楽しくて、すぐに時間が過ぎる。そして、とても印象に残るから。) 	<p>やってみたりした方が解りやすいし、眠くもならないから。)</p> <ul style="list-style-type: none"> □体育 (みんなが遊んで参加し、楽しめる。) □子育て (ただ、教えるだけでなく、私たちの反応を見ながら、工夫した授業展開をして欲しいから。) □子育て (教員、学生ともに成長していける。)
<p>道 ($\chi^2=5.43, df=1, p=.020$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■一方通行の道路標示 (先生は私たちが導こうとしてくれるが、形式張っている感じがする。単調で面白味に欠けている。) ■道 (分かりやすく、理解できるものあれば、理解しにくいものもあったから。) ■道 (通過するべきものだから。) ■細くて、狭い道路 (なんだか、一方的なように感じる。) ■道路 (一方通行のようで、分かり難い講義もあるから。) ■一方通行の道路 (講師が一方的に話すことが多い。) ■舗装されていない、道のような (なぜなら、面白い授業と退屈な授業がバラバラにあるからである。) ■道 (自分の将来に繋がる大事なことから。) □整備された道路 (通過しやすいから。) 	<p>育 ($\chi^2=5.12, df=1, p=.024$)</p> <ul style="list-style-type: none"> □保育所 (生徒が子供のように興味・関心を持ち、先生に質問し、教員も保育所の先生が子供をしつけるように、しっかり向き合った授業がよいから。) □テレビである教育番組 (ただ先生が話をずっとするだけでは、面白くないし、眠くなってしまうと思う。だから、パワーポイントで、見やすい資料を作ったり、実際に 	<p>笑 ($\chi^2=5.64, df=1, p=.018$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■お笑い芸人 (自分の好きな (意味があり、プラスになる) 先生もいるけれど、逆に興味のない (自分にとってプラスにならないと感じてしまう) 先生も多い。) □お笑い番組 (笑いもありながら、刺激や学び、納得できることも含まれていて欲しい。終わった後は、見て (受けて) 良かったと思いたい。) □お笑い番組 (みんなの目が輝いていて、生き生きしている。) □笑点 (面白くてためになるから。) □お笑い (興味がそそられる授業) □お笑い芸人が出てる情報番組 (すぐおもしろくて、理解しやすく、頭に入る。) □お笑い番組 (すべての授業に興味を持っているわけでもないから、興味を持っている授業と持っていない授業とでは、受ける気持ちが違ってしまうのだが、教授が少しでも楽しい講義にしてくれたら、受けたいと思うようになると思うから。) □お笑い番組 (おもしろいと、寝ずによく聞くから。) □お笑いのコントや漫才 (面白いし、さらに良く記憶に残るから。)
<p>遊 ($\chi^2=9.70, df=1, p=.002$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■遊園地 (みんなで楽しく学べるから。) 		

授業では271個中8個であった。

現実の教員と理想の教員：現実の教員において比喩されたものの中で最も多かったのが「親(14)」、つづいて「石(10)」であった。理想の教員において比喩されたものの中で最も多かった

のが「親(28)」、つづいて「友(22)」であった。

表2は、教員イメージの比喩について、理想と現実の間で有意水準5%以下で差が見られたものを抽出したものである。「遠」については、現実の教員では、遠い存在や近そうで遠

表2. 現実の教員 (■) と理想の教員 (□) で有意差が見られたもの

<p>遠 ($\chi^2=3.92, df=1, p=.048$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 少し遠い存在だ (まだあまり知らないから。) ■ 近そうで遠い人 (教員の数は多いけど、授業で分からなかったところなどの質問がしにくい。) ■ 遠距離恋愛 (授業以外で接する機会がほとんど無いから。) ■ 遠くにいる人 (あまり深く関わったことが無く、まだよく分からない。) 	<p>ら。)</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 友達 (言いたいことは言いやすく、そして、自分の駄目なことは叱ってくれるような、そんな馴れ合いだけではない友達のようなものだったら、会いたくて学校に行き、一緒に目標に向かって頑張れそう。) □ 親友と親 (学生の気持ちを受け止めてくれて、常に親身になってくれる教員が良いから。また、学生が間違ったことをしそうなときは、叱り、成功したときには褒めてくれる教員が良い。) 	<p>ら。)</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 友達 (何でも相談できる関係でありたい。) □ 友人 (授業のことだけでなく、個人的な相談にもものってもらえるような教員であつたらいいと思うから。) □ 友だちほどなれなれしくなくても良いけれど (相談しやすい) □ 友だちみたいな人 (先生と生徒が仲の良いのが理想だ。)
<p>母 ($\chi^2=8.36, df=1, p=.004$)</p> <ul style="list-style-type: none"> □ お父さん、お母さん (学生のことを、子供のように思いやって、少しでも学生のためになるようにと考えて欲しいから。いつも、身近な存在でありながら、尊敬できる人であって欲しいから。) □ お母さん (もっと身近に感じたいから。) □ 母親や父親 (近くて、暖かくて、叱ってもらえて、何か生きるモデルとなってくれるように人に、勉強以外の面でも学びたい。) □ 父親であり、母親 (厳しくもあるが、的確な道を教えてくれる存在であって欲しいから。) □ 母親 (時には厳しく、時には親身になって、一人一人をよく見て欲しい。) □ お母さん (大きくて暖かい) □ 母親 (怒るときは怒る!! 教えるときは教える!! 優しいときは優しく!!) □ お母さん (親しみが持て、時に優しく時に厳しく接して欲しいから。) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 友達 (何でも言えて、表面的な関係ではない。) □ 尊敬できる友人 (気軽に質問したり会話したいから。) □ 友達 (困ったときに気軽に質問したり、話を聞いてもらえる。) □ 友達 (今現在抱える不安や悩みをかしこまらず、対等に話せるから。) □ 友だち (何でも話せる、楽しい授業が築けそうだから。) □ 友達 (生徒と近い教員だと良いと思うから。) □ 友達 (気軽に会話ができる。) □ 友達 (親しくなりたいから) □ 時には教科書、時には友達、時には人生の先輩。(知らないことをたくさん知りたいし、相談もしたい。人生の先輩として、いろいろな将来のアドバイスが欲しいから。) □ 親や友達、先輩 (同じ立場で、また、人生の先輩として指導してほしいから。) □ 友人 (分からないところを、いちからおしえてくれるし、分からないところを共感してくれる。) 	<p>親 ($\chi^2=5.53, df=1, p=.019$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 親戚 (親しみやすい先生が多いから。) ■ 親戚 (近いようであまり接点がないから。また、高校までとは異なり、クラス担任などのような、毎日の関わりがあまりないからです。) ■ 親 (あまり話さなくても、自分たちの性格をつかんでいるから。) ■ 親戚のおじさんおばさん (近すぎず遠すぎずの関係。) ■ 親 (やさしく、時に厳しく教養してくれるから。) ■ 両親 (親しみやすい。) ■ 親に近い存在 (何事も詳しく教えてくれるから。) ■ 親戚 (親しみやすい。) ■ 親 (ちゃんと向き合ってくれる。) ■ 親戚 (習っている教授として近くて、なんだか遠いから。) ■ 親 (話しかけたら、みんなあつたかい人。) ■ 親 (先生方は皆さん、自分の親と歳が近いから。) ■ たまにあう親戚の人 (普段はあまり関わりがないけど、質問したりするときは親切。話してみるといい人だったりする。)
<p>友 ($\chi^2=18.10, df=1, p=.0000$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 友達 (みんな優しい、おもしろい。) ■ 友達 (話しやすい、質問しやすい。) □ 友達 (友達のように、何でも話せる関係であつたらいいと思うか 	<ul style="list-style-type: none"> □ 友達 (楽しいから) □ 友達 (何でも聞けるから) □ 友達 (教員と生徒の距離が近い方が楽しいから。) □ 友達 (いろいろな話をしたいか 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 親 (生徒の将来や学業を心配し、アドバイスを与えているからだ。) □ 親友と親 (学生の気持ちを受け止めてくれて、常に親身になってくれる教員が良いから。また、学

<p>生が間違っことをしそうなときは、叱り、成功したときには褒めてくれる教員が良い。)</p> <p>□親(学生(子)のことを理解しつつも、時には厳しく、時には優しく、学生(子)の成長を認める。)</p> <p>□親(厳しくても愛のあるもの、人だったら、自分もがんばれる。)</p> <p>□両親(どれだけミスをして、諦めずに支え続けてくれる身近な存在。)</p> <p>□父親(昔の)(生徒との距離は近いが、先生としての威厳がある。)</p> <p>□親(学生をいつも親のような温かい目で見守って欲しいから。)</p> <p>□親(気軽に相談できたり、話を聞いて欲しいから。)</p> <p>□母親や父親(近くて、暖かくて、叱ってもらって、何か生きるモデルとなってくれるように人に、勉強以外の面でも学びとりたい。)</p> <p>□両親(温かく見守り、時には厳しくして欲しいから。)</p> <p>□親(普段は見守っているだけでも、いざというときには正しい道に導いてくれるから。)</p> <p>□ジブリ作品の父親像(特に、「耳をすませば」のしずくの父親)(好みだから。)</p> <p>□父親であり、母親(厳しくもある</p>	<p>が、的確な道を教えてくれる存在であって欲しいから。)</p> <p>□両親(父のように社会(現場)の厳しさを伝えてくれたり、母のように不安に寄り添ってくれたり、教えを請うたり、相談したりできるシステムや関係があると安心して勉強ができ、それが社会に行く不安を減少させると考えているので。)</p> <p>□親(威厳があって、優しく暖かい。)</p> <p>□親(ただ単に教えるだけでなく、陰でのサポートになったりする。)</p> <p>□親(優しいときと、厳しいときがあって、生徒を第一に考えてくれる。)</p> <p>□親や友達、先輩(同じ立場で、また、人生の先輩として指導してほしいから。)</p> <p>□親(人生の先輩として尊敬できるから。)</p> <p>□母親(時には厳しく、時には親身になって、一人一人をよく見て欲しい。)</p> <p>□母親(怒るときは怒る!!教えるときは教える!!優しいときは優しく!!)</p> <p>□親戚のお姉ちゃん(親しみやすく、はなしかけやすいから。)</p>	<p>□親父(尊敬しているから。)</p> <p>□両親(近く感じるから。)</p> <p>□親(親身に相談できるから。)</p> <p>□親(時には厳しく、時にはやさしい指導をして欲しいから。)</p> <p>□親(少人数の大学だから、もっと関係を深めたいから。)</p> <p>□親(親しみやすいが、しっかり私たちのことも考えてくれる。)</p> <p>□親(教えることはしっかりきびしく、でも授業外ではプライベートも相談できる。)</p>
---	---	--

色 ($\chi^2=5.91, df=1, p=.015$)

■色鉛筆(種類(人数)が多くて個性豊か。)

■色鉛筆(講義が分かりやすかったり、熱心な先生もいるし、分かり難くて、熱心でない先生もいて、様々。)

■色鉛筆(教員によって授業のやり方はそれぞれ違うので、教員が授業の色を決めていると思うから。)

■色鉛筆(十人十色だから。)

■色鉛筆(いろんなタイプの方がいるから。)

■色とりどりの花(それぞれの個性を感じるから。)

い、遠距離恋愛と比喻されたのが255個中4個あり、理想の教員では比喻されたものはなかった。「母」については、現実の教員では比喻されたものがなかったのに対して、理想の教員では248個中8個あった。「友」については、現実の教員では友達と比喻されたものが255個中2個あったのに対し、理想の教員では友達や親友など248個中22個あった。「親」については、現実の教員では親戚や両親など255個中14個あったのに対し、理想の教員では父親、母親、両親、親戚、親友など248個中28個あった。「色」については、現実の教員では色鉛筆や色とりどりなど255個中6個あったのに対し、理想の教員では比喻されたものはなかった。

現実の授業に対する比喻の理由と理想の授業に対する比喻の理由：授業に対して比喻を行っ

た場合になぜそのように思ったかと理由をたずねたが、その理由についても現実と理想の授業の間で比較を行った。現実授業に対する理由において比喻された中で最も多かったのが「分(37)」、つづいて「味(26)」であった。「分」については、「90分間が短いものあれば長いものもある」「分かりにくい」「自分のためになる」「自分一人で答えを出している」「自分でわかっているのかわからない」「自分の意見が言いやすい」「自分次第」「様々な分野」「甘い部分がある」などがあげられた。「味」については、「興味あるもの」「いろいろな味がある」「美味しい」「面白味」「意味のない」などがあげられた。理想授業において比喻されたものの中で最も多かったのが「楽(55)」、つづいて「分(42)」であった。「楽」については、「楽しい授業」「楽し

める」「気楽に授業を受けたい」などがあげられた。「分」については、「90分間が楽しい」「自分の興味」「自分も参加」「存分に」「気分がよい」「どの分野の実践にも対応」「盛り上がるの部分」「分かりやすい」「分かり合い」「この分

野おもしろい」などがあげられた。

表3は、授業イメージの比喩に対する理由について、理想と現実の間において有意水準5%以下で差が見られたものを抽出したものである。「一方」について、現実授業の理由で一方

表3. 現実の授業 (■) と理想の授業 (□) の理由で有意差が見られたもの

<p>一方 ($\chi^2=13.27, df=1, p=.0002$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ バッティングマシン (多くこちらに投げられるものの、受け取ったり吸収はできにくい。一方的である。) ■ 野球のノック練習 (先生との距離が近いけど、一方的な授業と感じる。) ■ テレビ (先生から生徒へ一方通行で、こちら側は何もできない。) ■ テレビ (一方的である。) ■ 一方通行 (教員から生徒への一方的なもの。) ■ 幼い子供 (親から一方的に“～しろ～やろう”のように、子は親に従うしかできないから。) ■ 心理テスト (楽しい一方で、考えさせられる。) ■ 放送 (ずっと一方通行で面白くない。) ■ 風 (授業によっては、先生が一方的に好きなことを話しているように思える。) ■ 川 (一方通行。) ■ 細くて、狭い道路 (なんだか、一方的なように感じる。) ■ 道路 (一方通行のようで、分かり難い講義もあるから。) ■ 一方通行の道路 (講師が一方的に話すことが多い。) ■ テレビ (情報の行き来が一方通行だから。) ■ 音楽 (今は教養ばかりで、音楽みたいに一方的に流れていく感じがする。) ■ 煙 (一方的に出るだけ出て、あまり受け入れられることもなく、ぼんやり消えてしまう。) □ 会話 (一方的ではなく、自分のペースで考えたり理解することができるから。) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 小学校の理科の実験 (ウキウキ、ワクワクする気持ちがいっぱい。) □ びっくり箱 (ワクワクする内容、魅力ある内容。) □ 食べ放題、飲み放題 (ワクワクできる授業を受けてみたい。) □ 旅行 (知らないところに足を踏み入れるワクワク感と、知った喜びを得られるから。) □ ライブ (先生のパフォーマンスに賛同したり、自分がステージに立ってみたり、ライブ (授業) を自分で企画することができると毎回ワクワクしながら学べると思うので。) □ 自分が好きなお店で買った福袋 (今日はどんな知識を身につけることができるのかとワクワクするような講義、専門分野のことをもっと学びたい。) □ 遠足 (今日はどんな話が聴けるかな。ワクワクみたいな感じが良いから。) □ 宇宙人 (ワクワクするし、知らないことをたくさん教えてくれそうだから。) □ ドラえもん (たくさん知識や技術を持っていて、様々なことを教えてくれる。毎回ワクワクさせてくれる。) 	<p>それぞれ個性があるのにそれがフルーツポンチとして一つにまとまっている。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ドロップス (面白くて塗しみなものもあるけど、ハッカのように出てくるのを嫌われているような先生の授業もある。) ■ 葬儀 (堅苦しいのは最初だけで、慣れると楽しい授業ができる。) ■ 遊園地 (みんな楽しく学べるから。) ■ 心理テスト (楽しい一方で、考えさせられる。) ■ シャボン玉 (その時だけは楽しませてくれて、頑張るけれど、あまり記憶に残らない。) ■ お祭り：講義は屋台、生徒は家 (講義内容を楽しんでいるのか、その雰囲気を楽しんでいるのか分からない。つまらなくなければ帰る。) ■ ロシアンルーレット (楽しいものとそうでないものが…) ■ 音楽 (今は教養ばかりで、音楽みたいに一方的に流れていく感じがする。) ■ 人生 (楽しいこと (授業) は選んでも、いやなこと (授業) は絶対に避けて (必修) 通れない。) □ バラエティ番組 (おもしろくて90分間が楽しい授業。) □ ドキドキワクワク (自分が興味の無かったことでも、興味を抱かせてもらえるような授業はとても楽しそうだから。) □ もっと楽しくてちゃんと勉強する気になる (今は授業はそんなに楽しくない。) □ 遊園地でも海でも良い (安全は保障されていて、楽しめる。自ら何に乗るか選択でき、それ自体を楽しむながら、満足を得ることができ。スリルや恐怖も含め楽しむことが必要。) □ 心理学の授業ORバラエティ番組、もしくは情報番組 (自分も参加できるし、嫌々でなく楽しい
<p>ワクワク ($\chi^2=4.73, df=1, p=.030$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アトラクション (ワクワクして参加したくなるものと、つまらなくて参加したくないものがある。) 	<p>楽 ($\chi^2=32.74, df=1, p=.0000$)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 小学校の時、習わされていた習い事。(興味あるもの、楽しいものはおもしろいが、それ以外は退屈。) ■ 政治番組かバラエティ番組 (解りやすく、90分間楽しい授業もあれば、何が言いたいのか解らず、90分間がとても長く感じる授業があるから。) ■ フルーツポンチ (フルーツポンチは様々なものが入って、一つの食べ物になっているが、一つ一つの果物単体で食べると、その単体の味を楽しめる。そのため、単体 	

- さらに、ためになったと思える。OR表には出ないが、長い期間準備をして、解りやすく簡潔にまとめられている。）
- 遊び（楽しいけど、学びもたくさんある。）
- 夏休み、春休み（楽しくてすぐ終わる。）
- 祭り（もっと楽しく、積極的に参加できると、身につけやすいと思うからです。）
- 体育（みんなが遊んで参加し、楽しめる。）
- スポーツ（教える側も受ける側も、楽しくて、一生懸命であるから。）
- パーティ（楽しい）
- 遊園地（楽しい）
- ゼミ（少人数で、生徒と教員の方が相互に授業に対して関わる形ができるから。ゼミスタイルは理解度が深まる上、とても楽しい。）
- 劇（楽しんで理解できるから。）
- 腹八分目のご飯（いっぱいだと苦しいけれど、腹八分目だと次が楽しみになったり、まだ空きがあるから。）
- キャンプ（いろんな人々が居る中で、それぞれが自分の役割に気付いて行動する。その結果、記憶にも残るし、楽しく体験できる。）
- うどん（柔らかくて、楽しいけれど、腰があり、大事なところはしっかり頭に入る。）
- 家族がいる家の中（アットホームに気楽に楽しく授業を受けたいから。）
- 遊園地（とにかく楽しい）
- バスガイド付きの旅行（自ら選んだ道の中でも、しっかりとしたコースを引っ張ってくださりながら、であるため。楽しみながらも、大切なところは落とさないものだから。）
- ディベート（少人数で、意見をぶつけ合え、理解を深めていけたら楽しくできそうだから。）
- 友達のおしゃべり（毎日授業を受けるのが楽しみになるから。）
- ゲームの攻略本（新しい知識をたくさん発見して、その発見を、驚き楽しめる。）
- テレビのクイズ番組（楽しく勉強できるから。）
- 遊び（楽しいから）
- パーティ（楽しいから）
- 分かりやすく、生徒たちに話しかけてくれるような感じ（楽しいから）
- 楽しい雰囲気のできる授業（楽しくと授業も楽しくなるから。）
- 鳥（授業を楽しくしてその上落ちない。）
- RPGゲーム（楽しければ集中できる。）
- 小説（興味を持たせてくれて集中させてくれて、楽しいから。）
- 太陽（先生も生徒も授業をしたり、受けたりして、楽しいと思えるからである。）
- お笑い番組（すべての授業に興味を持っているわけでもないから、興味を持っている授業と持っていない授業とでは、受ける気持ちが変わってしまうのだが、教授が少しでも楽しい講義にしてくれたら、受けたいと思うようになると思うから。）
- 会話（楽しみながらも、ちゃんと内容が記憶に残る。）
- スポーツ（うまくなる楽しみがある。）
- 連続ドラマ（おもしろいから自習が楽しみになる。）
- アトラクション（参加することを楽しめるのが良いからです。）
- 興味やテレビ（楽しくて時間を忘れさせてくれる。）
- 「世界一受けたい授業」（楽しく盛り上がり、新しいことが吸収できるから。）
- 舞台（みんなが楽しめたり集中できる。）
- 冒険（はじめてのことが多いから、楽しみながらやりたいから。）
- いろいろな意味で面白い。（“楽しい”という意味でもだが、“この分野面白い”“勉強したい”という面白みを教えてくれる授業が良いから。）
- 美味しいご飯（楽しい、興味が持てるもの良い。）
- 31（自分の興味のある物を選んで、組み合わせ、自分の物にできるような授業が良い。楽しくて、興味が沸く授業がしたいです。）
- 小学校（一人一人と目が合い、楽しさの中にも自由があった。）
- 面白いテレビ（楽しくて眠くならないから。）
- 本（楽しくて役に立つから。）
- 紙芝居（読み手（教員）が聞き手（学生）の反応を見ながら進めていけられると良いから。展開が楽しみになるような内容がよいから。）
- 漫才（少し笑えたり、息抜きができるのと楽しいから。）
- 美味しい食べ物（飽きずに楽しみたいから。）
- 音楽（楽しくて幸せだから。）
- キャッチボール（授業をする側も、受ける側も、お互いにコミュニケーションを取り合って、楽しさのある授業が良いから。）
- テレビ（分かりやすく楽しいものが良い。）
- 遊び（楽しくて、すぐに時間が過ぎる。そして、とても印象に残るから。）
- 部活（熱心に取り組み、楽しめるから。）
- 互（ $\chi^2=4.13$, $df=1$, $p=.042$ ）
- キャッチボール（聞くことにより、返ってきて、そのことに対して、再び返すことができる。お互いのことをよく分かっている。）
- ゼミ（少人数で、生徒と教員の方が相互に授業に対して関わる形ができるから。ゼミスタイルは理解度が深まる上、とても楽しい。）
- おしくらまんじゅう（お互いに暖めあうように、生徒と先生と一緒に授業をつくるようにしたい。）
- キャッチボール（授業をする側も、受ける側も、お互いにコミュニケーションを取り合って、楽しさのある授業が良いから。）
- 生徒（お互いが学ぶ姿勢であった方が、勉強できるから。）
- 合（ $\chi^2=6.02$, $df=1$, $p=.014$ ）
- 川、海（授業によっては、時間の都合で…と流されるものもあるから。深いところは深いけど、浅いところはビックリするくらい浅いから。）
- 福袋（中身は、合うもの、合わないものがある。）
- バラバラのパズルのピース（一つだけでは見えてこないものが、組み合わせると見えたり、経験によって見えたりするから。）
- 地蔵（生徒同士が話し合い、質問などに活発でない。ずーっと聞いてて動かないから。生徒自身が真面目すぎる人達なのでつまらない。）
- 保育所（生徒が子供のように興味・関心を持ち、先生に質問し、教員も保育所の先生が子供をしつけるように、しっかり向き合った授業がよいから。）

<p>□テレビタックル（議論し合ってるし、間違っても熱弁ふるっているから。）</p> <p>□友人との会話（先生と学生が自由に意見をやりとり話し合えるから。）</p> <p>□私が総理大臣になったら…秘書団中（意見をぶつけ合い、高めていける気がする。）</p> <p>□ディベート（少人数で、意見をぶつけ合え、理解を深めていけたら楽しくできそうだから。）</p> <p>□教員の伝記（今までに経験されてきたことを事例として折り込みながら、教科書と結び合わせていけるような授業が理想だから。）</p> <p>□友達との会話（思ったことが言い合える。）</p> <p>□中学時代の人間関係（ちゃんと向き合いたいから。授業と先生と。）</p> <p>□子供のけんか（自分の意見を自由に、活発に言い合えるような授業に憧れる。）</p> <p>□31（自分の興味のある物を選んで、組み合わせ、自分の物にできるような授業が良い。楽しくて、興味が沸く授業がしたいです。）</p> <p>□小学校（一人一人と目が合い、楽しさの中にも自由があった。）</p> <p>□キャッチボール（教員と学生がともに分かり合いしていきたい。）</p> <p>□家族の団らん（言いたい意見を言い合える。）</p> <p>□キャッチボール（授業をする側も、受ける側も、お互いにコミュニケーションを取り合って、楽しさのある授業が良いから。）</p>	<p>集中 ($\chi^2=8.59, df=1, p=.003$)</p> <p>■集中（興味あるのと、無いのと、集中できるのと、できないのと、様々。）</p> <p>■なんとなく過ぎていく（集中していないときは時間が経つのが遅い。）</p> <p>□解き明かされていく謎の映画（食い入るように集中できそう。）</p> <p>□CM（短時間で集中してやりたいから。）</p> <p>□家族会議（みんなが一つのこと集中できる。）</p> <p>□少人数ゲーム（少人数の方が集中しやすく、実践しながら参加できるから。）</p> <p>□バレーボール（テンポがよく、みんなが一つのボール（講義）に集中できるから。）</p> <p>□RPGゲーム（楽しければ集中できる。）</p> <p>□小説（興味を持たせてくれて集中させてくれて、楽しいから。）</p> <p>□舞台（みんなが楽しめたり集中できる。）</p> <p>□高校3年の時のような授業（皆必死で、うるさくなく、集中できるから。）</p> <p>□映画（集中してあけるから。）</p> <p>□スピード勝負（いかに集中して授業が早く終わるか。）</p> <p>□高校の授業（人数が1つの授業に対して、こんなに多くなかったから。もっと集中できていた。）</p> <p>□ディベート式（自分も周りも集中できるから。）</p> <p>導 ($\chi^2=3.92, df=1, p=.047$)</p> <p>■一方通行の道路標示（先生は私た</p>	<p>ちを導こうとしてくれるが、形式張っている感じがする。単調で面白みに欠けている。）</p> <p>■映画の予告編（項目の導入で終わることが多い。）</p> <p>■味付けをしていない料理（専門科目における実践的指導があまり行われていないから物足りない。）</p> <p>■六本木ヒルズと生活保護世帯（指導方法に格差がある）</p> <p>つまらな ($\chi^2=9.93, df=1, p=.002$)</p> <p>■お笑い番組（面白い授業とつまらない授業があるから。）</p> <p>■映画（おもしろくてすぐ終わる時もあるけど、つまらなくてなかなか終わらない時もある。）</p> <p>■飲食店（授業を受けて、つまらなかつたら出席しなくなるから。）</p> <p>■アトラクション（ワクワクして参加したくなるものと、つまらなくて参加したくないものがある。）</p> <p>■下手な落語（つまらないから、面白くないから。）</p> <p>■地藏（生徒同士が話し合い、質問などに活発でない。ずーっと聞いて動かさないから。生徒自身が真面目すぎる人達なのでつまらない。）</p> <p>■映画（興味深いと食いつくが、つまらないと寝やすい空間だから。）</p> <p>■お祭り：講義は屋台、生徒は家（講義内容を楽しんでいるのか、その雰囲気を楽しんでいるのか分からない。つまらなくなれば帰る。）</p> <p>■飛行機（つまらないから。）</p> <p>■宝くじ（選んで面白いものもあるから、つまらないものもあるから。）</p>
---	---	---

的や一方通行と説明されたものが276個中16個あり、理想授業では269個中1個であった。「ワクワク」について、現実授業では276個中1個だったのが、理想授業では269個中7個であった。「楽」について、現実授業では276個中12個だったのが、理想授業では269個中55個であった。「互」について、現実授業ではなかったのが、理想授業では269個中4個であった。「合」について、現実授業では276個中4個だったのが、理想授業では269個中14個であった。「集中」について、現実授業では276個中2個だったのが、

理想授業では269個中13個であった。「導」について、現実授業では276個中4個だったのが、理想授業ではなかった。「つまらな」について、現実授業では276個中10個だったのが、理想授業ではなかった。

現実の教員に対する比喻の理由と理想の教員に対する比喻の理由：教員に対して比喻を行った場合になぜそのように思ったかと理由をたずねたが、その理由についても現実と理想の教員の間で比較を行った。現実教員に対する理由において比喻された中で最も多かったのが「分

(41)」、つづいて「教(33)」であった。「分」については、「よく分からず」「いろいろな分野の先生」「分からない」「自分の物差し」「自分の色を主張」「得意とする分野」「分け隔てなく」などがあげられた。「教」については、「いろい

ろな教員」「教え方に開き」などがあげられた。理想教員に対する理由において比喩された中で最も多かったのが、「教(29)」、つづいて「学(27)」と「分(27)」が並んだ。

表4は、教員イメージの比喩に対する理由に

表4. 現実の教員 (■) と理想の教員 (□) の理由で有意差が見られたもの

<p>遠 ($\chi^2=4.36$, $df=1$, $p=.037$)</p> <p>■星 (それぞれが特殊で、個性的だけど、その存在は遠くで輝いているだけで、それぞれがどのような存在なのか、よく分からず全部同じに見える。)</p> <p>■ニュースキャスター (遠い存在だし、物事を伝えるだけの人もいるし、聞けばためになる情報ばかりだろうが、聞かなくても後悔しない。聞いても楽しくない。)</p> <p>■大学 (近いようで遠いから。)</p> <p>■雲 (遠い存在である気がする)</p> <p>■親戚のおじさんおばさん (近すぎず遠すぎずの関係。)</p> <p>■雲 (遠くてあまり接点が無く、流れていく感じ。)</p> <p>■親戚 (習っている教授として近くて、なんだか遠いから。)</p> <p>□ー (普段は遠くから見守っていてほしいけど、助けがほしいときは、くれる。)</p>	<p>のんびりしている人が多く、よい意味で力が抜けている感じを受ける。)</p> <p>■0と1 (どんなに話しても意味がない教員と、たった一言にさえ、重みのある教員がいる。)</p> <p>相談 ($\chi^2=11.02$, $df=1$, $p=.0009$)</p> <p>■ときどき会うおばさん (研究室を訪れにくく、相談しづらい。)</p> <p>□近所のおばちゃん (困ってること、悩みなど、何でも相談できるし、駄目なところは注意してくれる。学ぶ意欲を引き出してくれると思うから。)</p> <p>□長屋の住人 (進路、学習のことなど相談にのって欲しい。)</p> <p>□太陽 (暖かく、自分たち生徒を見守って居てくれる存在であって欲しいから。また、困ったり、悩んだりしたとき、いつでも相談にのってくれるような存在が、理想であり、今まで幼稚園～高校までの先生がそのようであったからです。)</p> <p>□親 (気軽に相談できたり、話を聞いて欲しいから。)</p> <p>□生徒一人一人を大事に思ってくれる人。(暖かい言葉を、年長者から一言有るだけで、若い学生たちは、教員にも心が開き、相談などでき。いい出会いになるから。)</p> <p>□両親 (父のように社会 (現場) の厳しさを伝えてくれたり、母のように不安に寄り添ってくれたり。教を請うたり、相談したりできるシステムや関係があると安心して勉強ができ、それが社会に行く不安を減少させると考えているので。)</p> <p>□時には教科書、時には友達、時には人生の先輩 (知らないことをたくさん知りたいし、相談もしたい。人生の先輩として、いろいろな将来のアドバイスが欲しいから。)</p>	<p>□友達 (何でも相談できる関係でありたい。)</p> <p>□自分のお姉ちゃん (いろいろ相談できるから。)</p> <p>□親 (親身に相談できるから。)</p> <p>□友人 (授業のことだけでなく、個人的な相談にもものってもらえるような教員であつたらいいなと思うから。)</p> <p>□友だち：それほどなれなれしくなくても良いけれど (相談しやすい。)</p> <p>□親 (教えることはしっかりきびしく、でも授業外ではプライベートも相談できる。)</p>
<p>柔 ($\chi^2=4.17$, $df=1$, $p=.041$)</p> <p>□スポンジ (もっと柔軟に考えを変えることができたり (スポンジは変化できる (形))、生徒の気持ちを吸収して柔らかな心で対応してくれる。)</p> <p>□ねんど (いろいろな形に柔軟に対応する。)</p> <p>□グミ (適度に柔らかいところがある。)</p> <p>□スポンジ (もっと考えが柔軟で、生徒の意見も十分に自分の中に染み込ませてほしいからである。)</p>	<p>暖 ($\chi^2=11.81$, $df=1$, $p=.0006$)</p> <p>■ほっかいろ (専門的で難しいことばかり習うが、人柄的には授業に熱心で、私たちに暖かく接してくれていると思います。1、2年では、近くで接することはなかったが、ゼミに入り、先生の暖かさがじわじわ分かってきました。)</p> <p>■四季 (暖かい方もいれば、冷たい方もおられるから。)</p> <p>□太陽 (暖かく、自分たち生徒を見守って居てくれる存在であって欲しいから。また、困ったり、悩んだりしたとき、いつでも相談にのってくれるような存在が、理想であり、今まで幼稚園～高校までの先生がそのようであったからです。)</p> <p>□コタツ (暖かく、支援して欲しい。)</p> <p>□綿 (暖かい。)</p> <p>□太陽 (暖かく、いろんなものを与えてくれる。)</p> <p>□春 (ほかほかして暖かい。)</p> <p>□太陽 (暖かく、見守ってくれる先生たちが良いから。)</p> <p>□ハッピータン (懐かしい、暖かい感じ。)</p> <p>□生徒一人一人を大事に思ってくれる人。(暖かい言葉を、年長者か</p>	<p>暖 ($\chi^2=11.81$, $df=1$, $p=.0006$)</p> <p>■ほっかいろ (専門的で難しいことばかり習うが、人柄的には授業に熱心で、私たちに暖かく接してくれていると思います。1、2年では、近くで接することはなかったが、ゼミに入り、先生の暖かさがじわじわ分かってきました。)</p> <p>■四季 (暖かい方もいれば、冷たい方もおられるから。)</p> <p>□太陽 (暖かく、自分たち生徒を見守って居てくれる存在であって欲しいから。また、困ったり、悩んだりしたとき、いつでも相談にのってくれるような存在が、理想であり、今まで幼稚園～高校までの先生がそのようであったからです。)</p> <p>□コタツ (暖かく、支援して欲しい。)</p> <p>□綿 (暖かい。)</p> <p>□太陽 (暖かく、いろんなものを与えてくれる。)</p> <p>□春 (ほかほかして暖かい。)</p> <p>□太陽 (暖かく、見守ってくれる先生たちが良いから。)</p> <p>□ハッピータン (懐かしい、暖かい感じ。)</p> <p>□生徒一人一人を大事に思ってくれる人。(暖かい言葉を、年長者か</p>
<p>意味 ($\chi^2=3.89$, $df=1$, $p=.049$)</p> <p>■マンガ (個性が強い。色々な先生がいるので、ある意味楽しい。)</p> <p>■お笑い芸人 (自分の好きな (意味) があり、プラスになる) 先生もいるけれど、逆に興味のない (自分にとってプラスにならないと感じてしまう) 先生も多い。)</p> <p>■田舎の村の人 (基本的に穏やかで</p>	<p>暖 ($\chi^2=11.81$, $df=1$, $p=.0006$)</p> <p>■ほっかいろ (専門的で難しいことばかり習うが、人柄的には授業に熱心で、私たちに暖かく接してくれていると思います。1、2年では、近くで接することはなかったが、ゼミに入り、先生の暖かさがじわじわ分かってきました。)</p> <p>■四季 (暖かい方もいれば、冷たい方もおられるから。)</p> <p>□太陽 (暖かく、自分たち生徒を見守って居てくれる存在であって欲しいから。また、困ったり、悩んだりしたとき、いつでも相談にのってくれるような存在が、理想であり、今まで幼稚園～高校までの先生がそのようであったからです。)</p> <p>□コタツ (暖かく、支援して欲しい。)</p> <p>□綿 (暖かい。)</p> <p>□太陽 (暖かく、いろんなものを与えてくれる。)</p> <p>□春 (ほかほかして暖かい。)</p> <p>□太陽 (暖かく、見守ってくれる先生たちが良いから。)</p> <p>□ハッピータン (懐かしい、暖かい感じ。)</p> <p>□生徒一人一人を大事に思ってくれる人。(暖かい言葉を、年長者か</p>	<p>暖 ($\chi^2=11.81$, $df=1$, $p=.0006$)</p> <p>■ほっかいろ (専門的で難しいことばかり習うが、人柄的には授業に熱心で、私たちに暖かく接してくれていると思います。1、2年では、近くで接することはなかったが、ゼミに入り、先生の暖かさがじわじわ分かってきました。)</p> <p>■四季 (暖かい方もいれば、冷たい方もおられるから。)</p> <p>□太陽 (暖かく、自分たち生徒を見守って居てくれる存在であって欲しいから。また、困ったり、悩んだりしたとき、いつでも相談にのってくれるような存在が、理想であり、今まで幼稚園～高校までの先生がそのようであったからです。)</p> <p>□コタツ (暖かく、支援して欲しい。)</p> <p>□綿 (暖かい。)</p> <p>□太陽 (暖かく、いろんなものを与えてくれる。)</p> <p>□春 (ほかほかして暖かい。)</p> <p>□太陽 (暖かく、見守ってくれる先生たちが良いから。)</p> <p>□ハッピータン (懐かしい、暖かい感じ。)</p> <p>□生徒一人一人を大事に思ってくれる人。(暖かい言葉を、年長者か</p>

<p>ら一言有るだけで、若い学生たちは、教員にも心が開き、相談などでいい出会いになるから。)</p> <p>□母親や父親(近くて、暖かくて、叱ってもくれて、何か生きるモデルとなってくれるように人に、勉強以外の面でも学びとりたい。)</p> <p>□カイロ(暖かくて堅苦しくないから。)</p> <p>□親(威厳があつて、優しく暖かい。)</p> <p>□パン屋さん(絵本に出てくるパン屋さんみたいに暖かい人と良いなあと思うから。)</p> <p>□春(皆さん暖かい方であってほしいから。)</p> <p>□お母さん(大きくて暖かい。)</p> <p>□太陽(優しく、暖かく見守って欲しい。)</p> <p>□太陽(冷たい天気(態度)じゃ、やる気は起きないし暖かくて(温かくて)良い天気なら動き出せそう。)</p>	<p>方もおられるから。)</p> <p>■こおり(冷たいから、授業ごとで先生がどんどん替わるから溶けて無くなってしまふのと同じっばいから。)</p> <p>■アイス(バラエティに富んでいるけど、ちょっと冷たいというか、近づきにくいから。)</p> <p>■風(温風だったり、冷風だったり、台風だったり、そよ風だったり、いろんな種類がありすぎて、一口で言えないどころか、善し悪しも決められない。)</p> <p>□太陽(冷たい天気(態度)じゃ、やる気は起きないし暖かくて(温かくて)良い天気なら動き出せそう。)</p> <p>色($\chi^2=4.30$, $df=1$, $p=.038$)</p> <p>■マンガ(個性が強い。色々な先生がいるので、ある意味楽しい。)</p> <p>■アットホームな家族(先生にもよるが、研究室に行くと、色々な話をしたり、親身になって話を聞いたり、アドバイスをくれるので。)</p> <p>■虹(親身になってくれる教員や、一方的に話す教員など、色々な教員が居るから。)</p> <p>■絵の具(絵の具がいろいろな色があるように、県大の先生は、それぞれの色(個性)が高校までと比べてとても強いから。)</p> <p>■クレヨン(いろんな色があつて、1回塗ってしまうと、どんな色を重ねても、何らかの形で自分の色</p>	<p>を主張し続けるから。)</p> <p>■色鉛筆(教員によって授業のやり方はそれぞれ違うので、教員が授業の色を決めていると思うから。)</p> <p>■飴玉(それぞれに違う色や味(個性)がある。)</p> <p>■色鉛筆(十人十色だから。)</p> <p>■祭りの屋台にあるヨーヨー(ヨーヨーにたくさんの色があるように、先生たちは誰一人として似た人が居ないから。)</p> <p>□真っ白の画用紙(色から自分が書くこと描くことを受け止めてくれるものだから。)</p> <p>□折り紙(色とりどりで、いろいろできる。)</p>
<p>冷($\chi^2=4.36$, $df=1$, $p=.037$)</p> <p>■氷(冷たい感じがする。)</p> <p>■スプーン(スプーンのようになめらかで人当たりがよく、優しいけれど、深く付き合おうとは思わないので、この辺りが冷たく感じる。)</p> <p>■海(冷たく突き放すときもあれば、優しく教えてくれるときもある。)</p> <p>■四季(暖かい方もいれば、冷たい</p>	<p>導($\chi^2=4.18$, $df=1$, $p=.041$)</p> <p>□人生の先輩(私たち学生が、将来、あるいは将来に向けて、どのようにあるべきかまで見通して指導してくださると、嬉しいと思うから。また、学生の個々のレベルや、理解度を確認しながら指導して欲しい。そのためにも、良く学生の声を聞き、学生を理解する姿勢であつて欲しい。)</p> <p>□親(普段は見守っているだけでも、いざというときには正しい道に導いてくれるから。)</p> <p>□親や友達、先輩(同じ立場で、また、人生の先輩として指導してほしいから。)</p> <p>□親(時には厳しく、時にはやさしい指導をして欲しいから。)</p>	

ついて、理想と現実の間において有意水準5%以下で差が見られたものを抽出したものである。「遠」について、現実教員の理由で「遠くで輝いているだけ」「遠い存在」と説明されたものが259個中7個あり、理想教員では250個中1個であった。「柔」について、現実教員の理由では見られなかったが、理想教員では「柔軟に対応する」「柔らかい」など250個中7個あった。「意味」について、現実教員の理由では「ある意味楽しい」「意味のない」「よい意味で」など259個中4個だったのが、理想教員の理由では見られなかった。「相談」について、現実教員の理由では1個しか見られなかったのに、理

想教員の理由では「何でも相談できる」など250個中13個見られた。「暖」について、現実教員の理由では2個見られたのに対し、理想教員の理由では「暖かく見守る」など250個中16個見られた。「冷」について、現実教員の理由では「冷たい」など259個中7個見られたのに対し、理想教員の理由では250個中1個見られた。「色」について、現実教員の理由では「色々な先生」など259個中9個見られたのに対し、理想教員の理由では250個中2個見られた。「導」について、現実教員の理由では見られなかったのに対し、理想教員の理由では「正しい道に導いて」「やさしい指導」など250個中4個見られ

た。

考察

本研究では、授業を受講した学生306人に、現実の授業・教員および理想の授業・教員について比喩を求め、その理由を述べてもらった。さらに理想と現実の比較を行った。

現実の授業と理想の授業：現実の授業については、「映画」や「テレビ」ととらえることが多く、その理由は、一方的で、おもしろいものからそうでないものまでさまざまであるととらえることが多かった。それに対して理想の授業については、「学」や「遊」ととらえることが多く、その理由は、学ぶことを求め、その中でも遊びの要素を入れてほしいというものであった。現実と理想の授業を比較すると、現実の授業は、一方的でわかりにくいと比喩されたのに対し、理想の授業は、遊びや笑いの要素がある中で育っていくのが望ましいととらえられていた。

現実の教員と理想の教員：現実の教員については、「親」や「石」ととらえることが多かった。その理由は、親のように厳格で向き合ってくれる一方で、石のように堅いという印象が多かった。それに対して理想の教員については、「親」や「友」ととらえることが多く、親のように厳格で向き合ってくれ、友だちのように何でもはなせる関係を理想としていることがわかった。現実と理想の教員を比較すると、現実の教員が色々な個性をもった教員が多い反面、遠い存在と見られているのに対し、理想の教員としては、母や親のように、ときには暖かく、ときには厳しい存在を求め、友だちのように、気軽に相談できて表面的ではない関係を求めていることがわかった。

現実の授業に対する比喩の理由と理想の授業に対する比喩の理由：現実授業の比喩に対する理由について、「分」と「味」が多かった。「分」には含まれる意味が多く、時間の「分」、自分の「分」、分かりにくい「分」があった。「味」にも含まれる意味が多く、「興味」「いろんな味」「面白味」「意味のない」があげられ、現実の授業を比喩したことに特有の理由を見いだすことは難しかった。理想授業の比喩に対する理由について、「楽」と「分」が多かった。楽については、楽しい授業を理想としていることが示唆された。「分」については、気分よく、分かりやすく、どの分野にも応用でき、分かり合える授業を理想としていることが示唆された。現実と理想の授業に対する比喩の理由を比較すると、現実の授業は、導いてくれるが一方的でつまらないのに対し、理想授業は、ワクワク楽しく、相互に学び合い、集中できるものを求めていることが示唆された。

現実の教員に対する比喩の理由と理想の教員に対する比喩の理由：現実教員の比喩に対する理由について、「分」と「教」が多かった。これらについては含まれる意味が多く、現実教員の比喩の理由に特有の意味を見いだすことは難しかった。理想教員の比喩に対する理由について、「教」「学」「分」が多かったが、これについても特有の意味を見いだすことは難しかった。現実と理想の教員に対する比喩の理由を比較すると、現実の教員に対しては、色々な教員がいるが遠い存在で冷たいといった理由で比喩を行っていた。理想の教員に対しては、柔軟で暖かく、相談に乗ってくれ、指導をしてくれるといった理由で比喩を行っていた。

比喩によって、現実と理想の授業や教員を比較すると、様々な特徴が浮かび上がってき

た。学生たちは楽しくて遊びの要素を取り入れたような授業を理想として求めているという点では、授業に対する安易さが浮かび上がってくるように思われる。確かに、学問というものは、厳密な事実裏打ちされた体系であり、それらを理解していくには辛抱強い鍛錬が必要である。しかしながら、学生は安易さだけを求めているのではなく、その一方で、相互に分かり合え、学生自身も授業の中に主体的に参加したいという姿が浮かび上がってくる。木野(2005)は、大学の授業を、これまでの講義型の一方から、学生も参加できる双方向型の小学校型の授業に変えていくべきであると提唱している。双方向を目指すには、大人数の授業であっても、身近なテーマを選び、分野の異なる教員によるオムニバス授業を実施し、グループワークや実験を導入し、アンケート用紙に対するフィードバックで可能だとしている(木野、2005)。

比喩表現による授業評価によって、これまで行われている質問紙による学生の授業評価とは異なった側面が見えてきた。福田ら(2006)は、質問紙による授業評価を検討した結果、分かりやすくよく組み立てられた授業法ほど満足度が高いことを示している。それらの質問紙法では、学生の求める双方向性、参加型の授業という側面は明らかにできなかった。このことが松尾ら(2005、2006)の指摘している、授業評価そのものへの疑問とも関連していると考えられる。

以上のことから、授業を比喩的に表現させ、理想と現実を比較することで、授業に対して学生が求めているものが安易なものだけでなく、学生自身が高まっていくことを求めていることが明らかになった。今後、これらのデータを元

に授業改善のための新たな検討が望まれる。

引用文献

- 秋田喜代美(1996)「教える経験に伴う授業イメージの変容－比喩生成課題による検討－」教育心理学研究 第44巻第2号176-186
- 福田恭介・本多潤子・宮崎昭夫・文屋俊子・Nigel Stott(2006)「学生の授業評価から見えてきた教員の授業改善」福岡県立大学人間社会学部紀要 第15巻 65-73.
- 木野茂(2005)「双方向型授業展開に関するワークショップ」福岡県立大学FDセミナー講演資料(2005.10.12)
- 松尾太加志・近藤倫明(2005)「学生による授業評価は何に役立つのか」北九州市立大学文学部紀要(人間関係学科)第12巻 51-64.
- 松尾太加志(2006)「学生による授業評価の妥当性と有用性－試験成績との関連－」北九州市立大学文学部紀要(人間関係学科)第13巻 63-77.

脚注

- 本研究は、2007(平成19)年度及び2008(平成20)年度福岡県立大学研究奨励交付金により行われた。